

RhD血液型 結果報告

静岡済生会総合病院 中野 翔太

配布資料

RhD血液型	
試料41	D陽性
試料42	D陰性

ガイドラインの改定

4. RhD 血液型検査

～略～

4.2. 方法および手順

4.2.1. 抗D 試薬と同時にRhコントロールを用いて検査を実施する。

4.2.2. Rh コントロールを用いた検査は、自己凝集による偽陽性反応(直接抗グロブリン試験陽性など)に起因する誤判定を防止するために重要である。

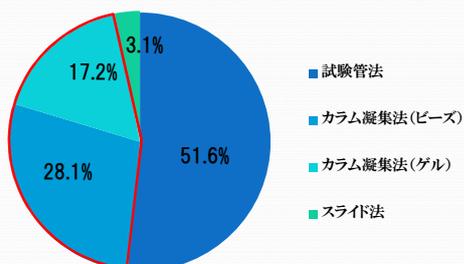
～略～

赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン (2014. 12月)

検査方法

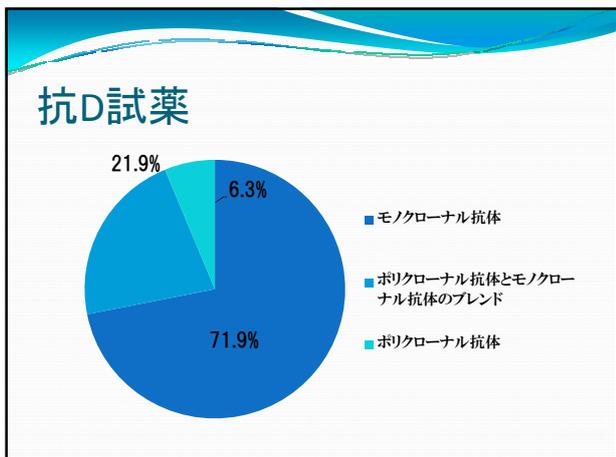
	施設数(%)
試験管法	33 (51.6%)
カラム凝集法(ビーズ)	18 (28.1%)
カラム凝集法(ゲル)	11 (17.2%)
スライド法	2 (3.1%)
合計	64 (100%)

検査方法



抗D試薬

	施設数(%)
モノクローナル抗体	46 (71.9%)
ポリクローナル抗体とモノクローナル抗体のブレンド	14 (21.9%)
ポリクローナル抗体	4 (6.3%)
合計	64 (100%)



回答状況

◇ D陰性確認試験 → 確認試験

◇ Rhコントロール → コントロール

試料41

判定結果	施設数(%)
D陽性(コントロール実施)	56 (87.5%)
D陽性(コントロール未実施)	8 (12.5%)
合計	64 (100%)

試料42

判定結果	施設数(%)
D陰性(確認試験、コントロール実施)	51 (79.7%)
D陰性の疑い、判定保留(確認試験未実施、コントロール実施)	4 (6.3%)
D陰性の疑い(確認試験実施、コントロール未実施)	1 (1.6%)
D陰性(確認試験実施、コントロール未実施)	3 (4.7%)
D陰性(確認試験未実施、コントロール実施)	1 (1.6%)
D陰性(確認試験未実施、コントロール未実施)	3 (4.7%)
D陰性の疑い(抗Dとの反応でw+)	1 (1.6%)
合計	64 (100%)

まとめ①

- Rhコントロールを必ず立てて検査する。
→使用する抗D試薬の添付文書で指定されたものを用いる

まとめ②

- 直後判定が陰性の場合は「判定保留」とし、引き続きD陰性確認試験を行う。
→輸血の場合はD陰性確認試験は必須ではなくD陰性として扱えばOK。

Rh陰性の確定、供血者、妊婦 などは必要になってくる。